

管され、昭和 26 年深川町への移転を経て、昭和 47 年現在地に鉄筋コンクリート 4 階建の近代的病院として生まれ変わった。

その後、患者数の増加に伴い、検査棟の増築を始めとする施設の整備、医療の進歩に対応する医療機器・設備の充実を図ってきた。また、患者ニーズの多様化に対応するため、診療科の拡大、診療体制の安定充実に努め、計画的に増床も進め、昭和 59 年には鉄筋コンクリート 5 階建の東館の落成をみた。高齢者医療にも力を入れ、昭和 60 年には老人デイケアセンターを設置し、リハビリテーション機能の向上も図った。続いて、北浦地域の基幹病院としての機能整備に着手し、平成 7 年に山口県立萩看護学校実習施設を併設、看護基準も 2.5 対 1 看護を取得した。またさらに、施設の狭隘化への対応と患者アメニティの向上のため、6 人室の解消及び 1 床あたりの床面積の拡大を目的とした病棟増改築工事を行い、平成 10 年 9 月に西館が完成した。

地域住民の高齢化、第 4 次医療法の改正、長期療養の必要にも迫られ平成 14 年 7 月に 5 階病棟を一般病棟から療養病棟へと転換し、更に平成 15 年 11 月には介護療養病棟 26 床と医療療養 7 床の増床を行い、平成 19 年より在宅医療へと目を向け、訪問リハビリ及び訪問看護ステーションを開始し、地域医療福祉連携室の設置をおこなった。

介護病床は平成 20 年 2 月を以って医療療養病棟へと転換したが、更なる看護の充実を図るべく、平成 20 年に 7 対 1 看護基準を取得した。